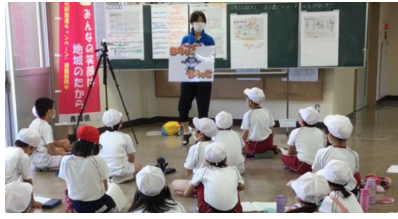


授業実践を振り返って

1 学びの姿

学習活動 1



活動の見通しを持たせる



動きのポイントの確認

学習活動 2



3 (1,2,3,4) 歩, 5 (1,2,3,4,5,6) 歩のリズムを素早く刻むことを意識した場

学習活動 4

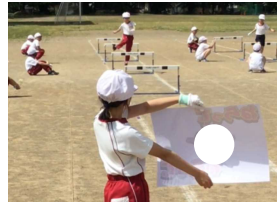


ハードル脇で動きを見合う

伝える姿



手袋の使用

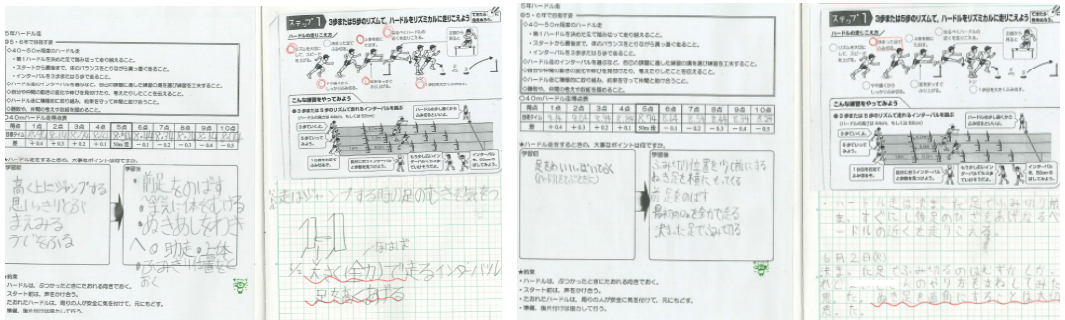


ゴール付近で絵を掲げる



教え合う姿

学習活動 7



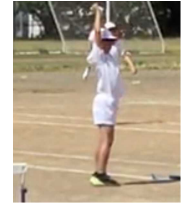
感染予防対策



間隔を示すライン



コース間の幅



振りを使った伝達

2 実践後の話し合いより

(1) 手立てについて

○仲間と動きを見合い教え合う補助教具の利用

・手袋について

手袋をしている手を突き出すことで、同じ踏切足でリズムよく走り越えることができ尚且つ遠くに着地することができていた児童もいた。

遠くに越えるためには「パンチ（前方への手の突き出し）」が有効で「少し前に（前傾姿勢）」ということに気付いていた。

・ハードル横での活動について

動作を使った伝達は難しい。伝え合うことに関する発問も少なかった。

・ゴール付近での絵について

足の裏を見せることを意識している児童は、自身が思っているより足が上がっていないことに気付くきっかけになっていた。

絵があることで勢いよく走り越えようという意識が働いている姿が見られた。

前傾姿勢への気付きへつながっていた。

ゴール付近の児童が絵を持つことで、一番動きを見取ることができるのにも関わらず動きについて伝える時間がないようであった。

○自己の変容に気付くための学習ノート作り

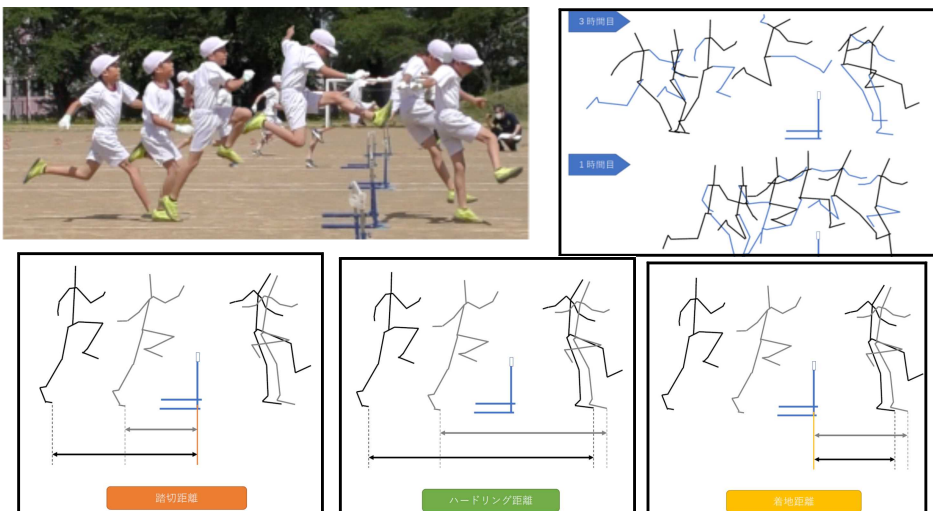
本単元での目標を記載したことで、学習が終了したときの姿がイメージでき個々の課題目標が明確になっていた。シートではなくノートを活用したことで、枠にとらわれずに気付きやポイントをイラストでまとめたり、吹き出しで記入したりするなど、表現方法に工夫が見られた。1時間ごとの変容のみならず単元を通しての成果や変容にも気付くことができた。

(2) 授業について

リズムカルに走り越えるための体の動きに着目させて学んでいく学習展開であった。単元を通してみると、歩数もリズムもまばらで走り越えるための動きも上方だった児童らが徐々に歩数が安定し、3（1, 2, 3, 4）歩の児童が増えリズムが安定してきていることから、技能の高まりが見られていた。

児童自身が動きながら考え、動きを修正するのは難しい。児童が目標とするイメージがどのようなものであるか、それがどこまで児童が理解していたかが大切。そのイメージに向かう修正していく方法も様々である。自分の中の知識や感覚、友達の様子や助言、教具・動画の使用などいろいろなフィードバックの方法がある。だからこそいろいろな手立てをする意味がある。

今回の授業においては、インターバルに目を向けさせてもよかった。動画をコマ送りにした写真にしたり、棒人間化して下記のように体の動きを見やすくしたりする方法もある。



3 形成的授業評価からの考察

本実践では、単元を通して形成的授業評価をとった。結果は次の通りである。

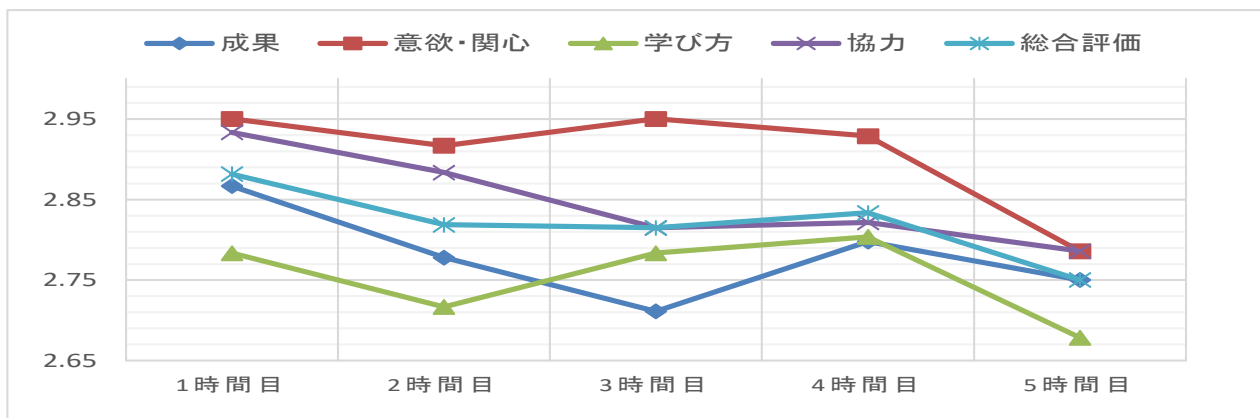
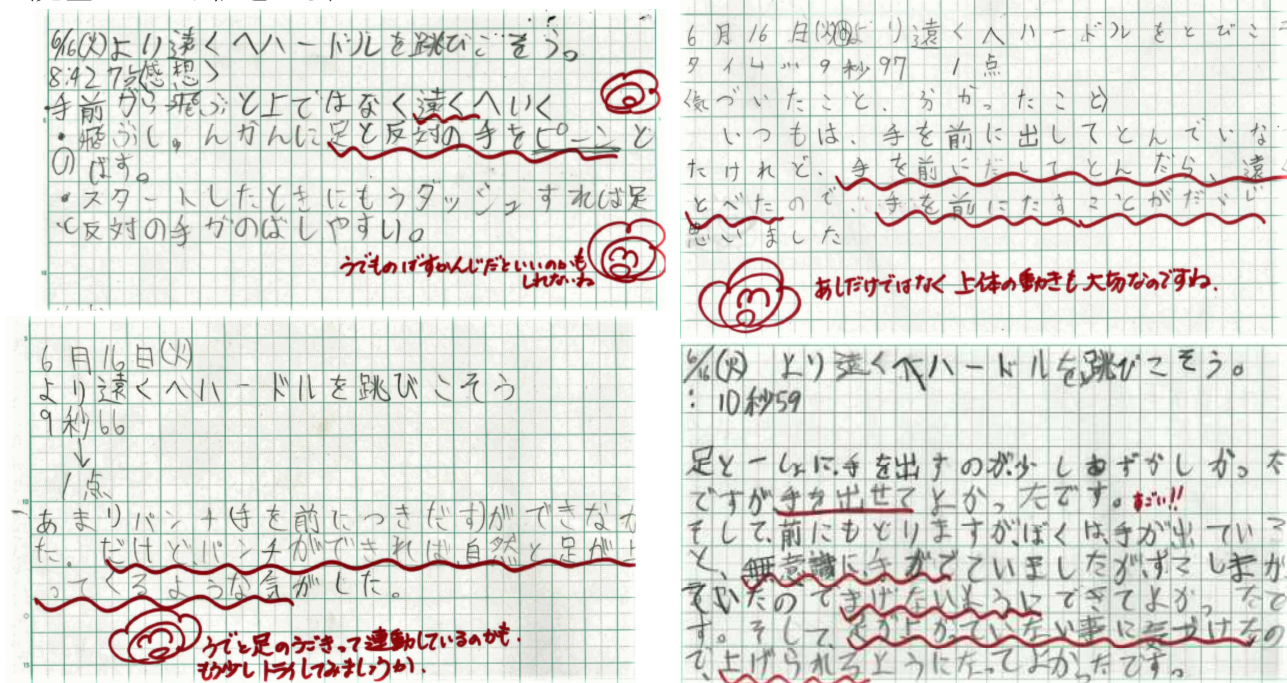


図1から、全体的に下降気味なのが見取ることができる。これは、コロナ禍ということもあり、これまでのような学習形態をとることができず、不完全燃焼で単元を終えてしまったことにある。ハードル走のような個人の動きを高める学習では、学び合った後の練習時間を十分とり、伸びを感じられるような時間が必要であった。上手くなりたいという児童の思いが予想より強かった。

本時である3時間目を見ると「成果・協力」が前時より低くなっていることが分かる。リズムよく遠くへ跳ぶためのポイントは分かっているが、体を思うようにコントロールできないもどかしさやタイムの縮まりとして結果が表れないことがあげられる。また、〇×だけでは伝えきれないこともあり、大声で気付いたことを伝えている児童もいたことから、協働についてさらに工夫が必要であったことが分かった。ただ、児童各々が少しずつ走り越す感覚をつかめてきて、ハードル走の面白みに気付いてきたことが意欲関心の高まりからも感じられる。

〈児童のノート記述から〉



4 授業者から

仲間と見合い教え合う活動において、言葉で伝達するよさに改めて気付かされた。各々の動きで気付いたことを互いに伝え合う中で、体の動かし方や動きを確認でき、確かな知識としている姿が見られていたことから、共通のポイントを見合うことだけに特化せず、気付きの交流の場が大事であることが分かった。コロナ禍でも安全に対話協働できる場の設定、授業の在り方についてさらに

考えていきたい。また、動いて考えるだけでなく、動画やイラストなどを用いた動きのージ化を図る時間も単元内に設けるなど、単元構成の工夫や授業形態についても改善していきたい。